

## 太陽光工事再開 住民が一部容認

### 霧島永水・土砂流出

霧島市霧島永水の大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設現場で土砂が流出した問題で、周辺住民らは7日、土砂流出防止策として植えられた芝の生育状況を確認した。写真。

住民側は、芝が根付いたのが確認できた一部エリアでの発電パネル工事再開を容認した。

今年5月、大雨による土砂流出や大規模浸食が発生し、泥水が川に流入するなど問題化。業者は建設工事を



いったん中断、造成を補修し芝を張るなどして基盤整備をやり直した上で工事を再開したい考えを示していた。

同日は、建設主体の東京エネシス（東京）や、土地を所有する、鎌田建設（霧島市）の関連会社の関係者、市の担当者が出席した。現場は、過去にゴルフ場や養豚場の建設が計画されたが、いずれも中止された経緯がある。（藤崎慎二）